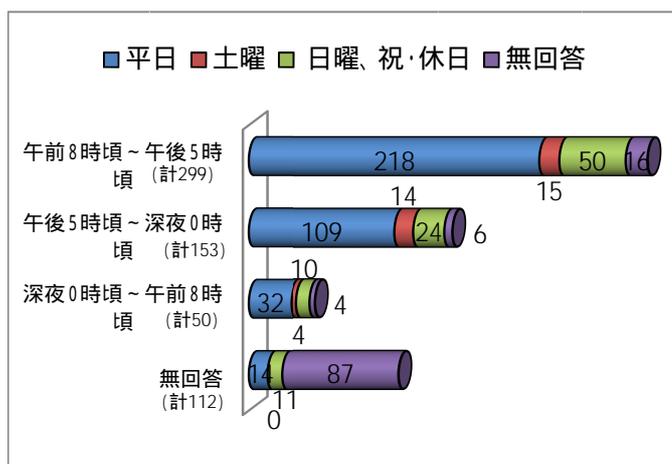


図b-1 検案実施の曜日と時間帯からみた人数と割合



図b-2 検案事例を担当にすることになった経緯からみた人数と割合

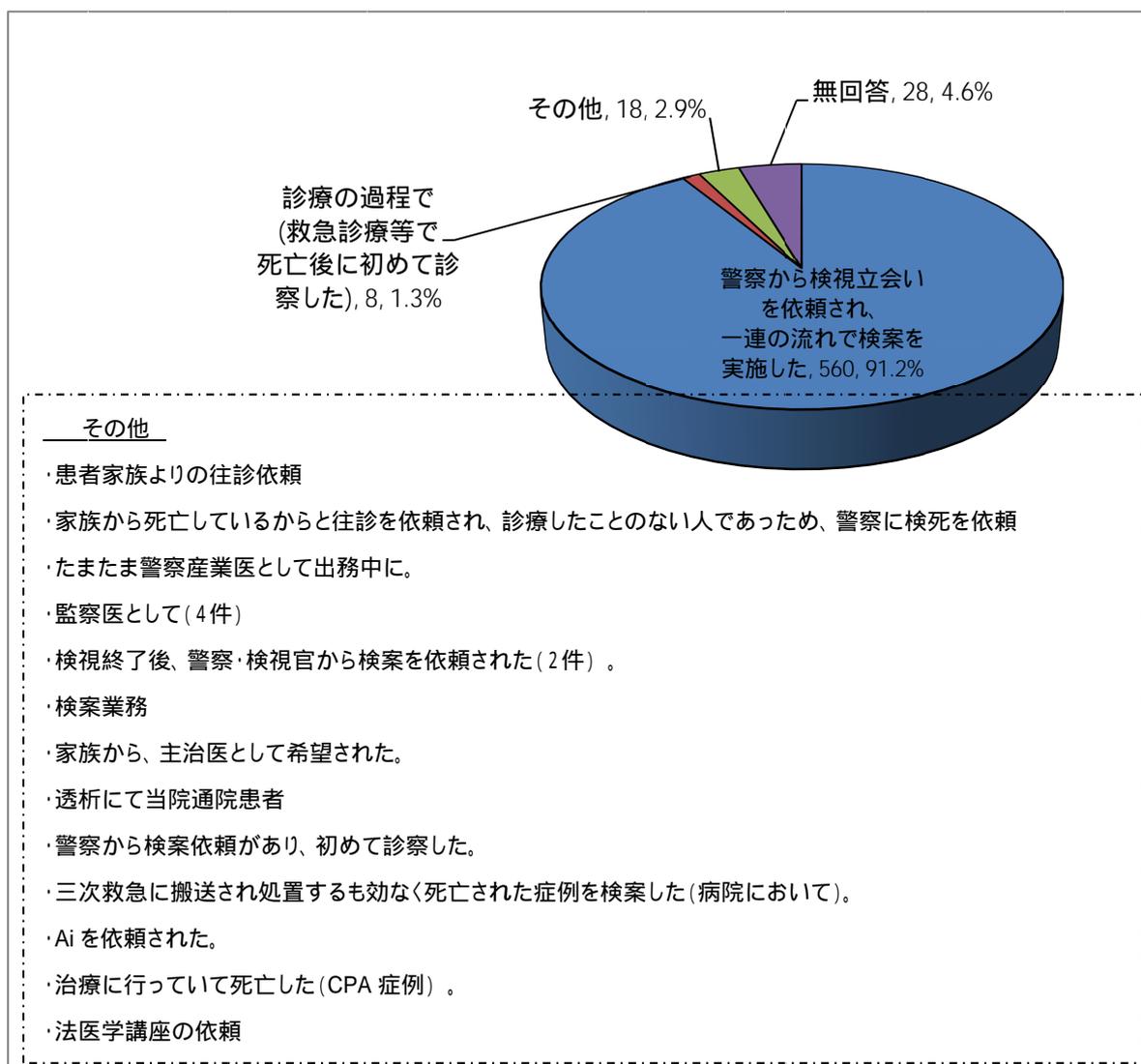


図 b-3 検案に際して実施された検査について

	実施されていない	以下の検査が実施された	無回答	合計
人数	223	168	223	614
割合	36.3%	27.4%	36.3%	100.0%

図 b-4 検案における検査種別からみた人数と割合（複数回答可）

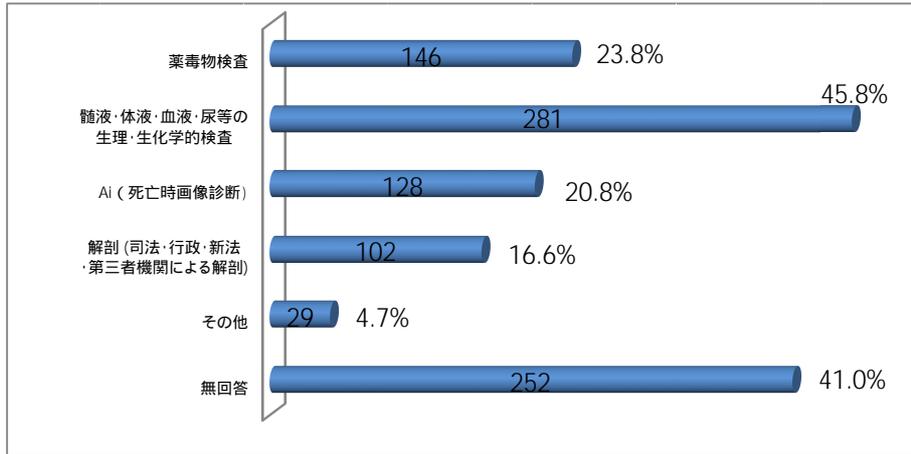


図 b-5 各種検査における実施施設区分

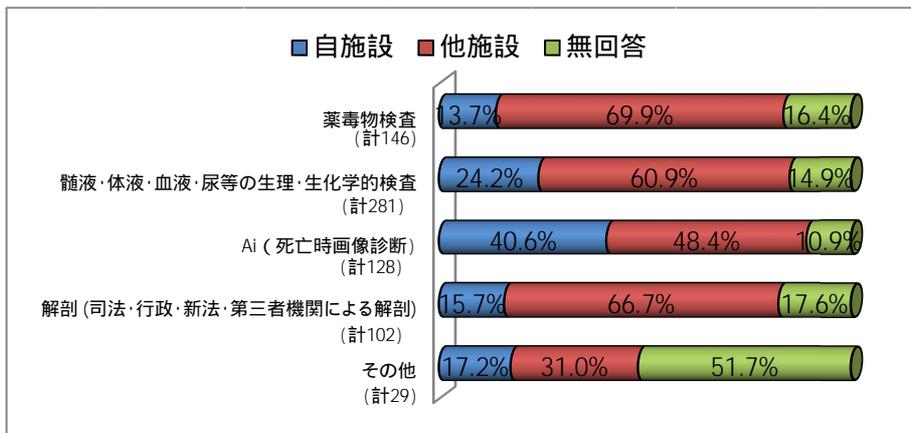
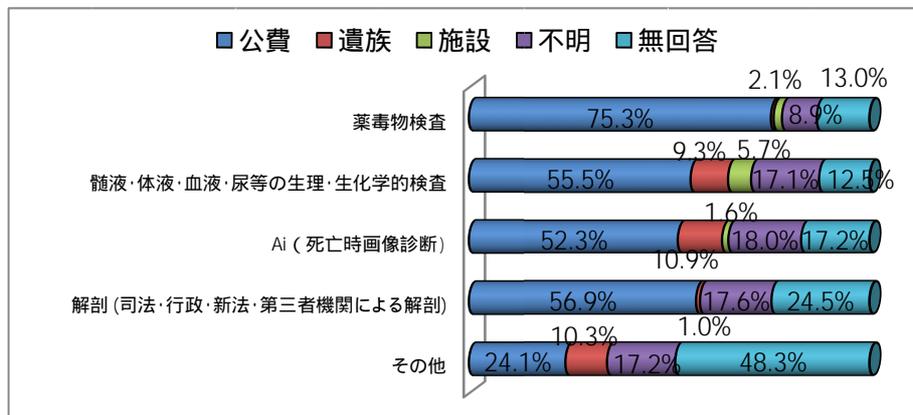


図 b-6 各種検査における費用負担区分



56.9%とやや低い結果であった（図b-7）。これは解剖においては、特に司法解剖の事例など情報提供に支障を来す事例が含まれることを反映していると考えられる。

また、参考として、これらの各検査方法について、費用負担と情報提供の有無との相関関係を図b-8～b-12に示すが、特に薬毒物検査と生理・生化学的検査を公費負担で実施した場合に情報提供のなかった事例が散見されている。

最後に、回答者が直近に担当した検案事例において、死体検案書を作成したのは誰であったかについての問い(図b-13)には、9割以上の566名が、検案をした医師自身で作成したと回答した。一方、自身で作成しなかったとする14名のうちでは、解剖医が作成(4名)、かかりつけの医師(1名)との回答もあった。

図 b-7 各種検査における検査結果情報提供の有無

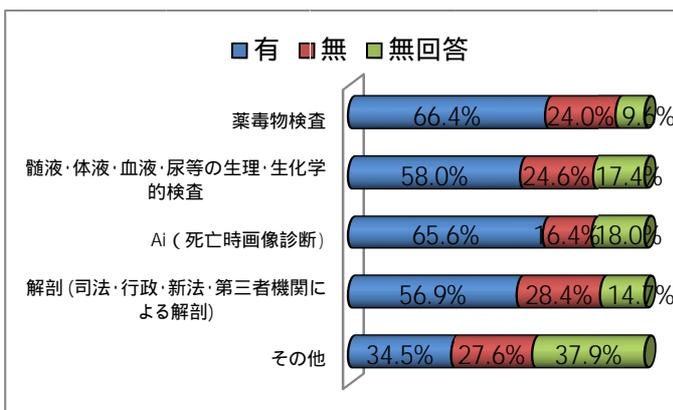


図 b-8 薬毒物検査における情報提供と費用負担からみた件数

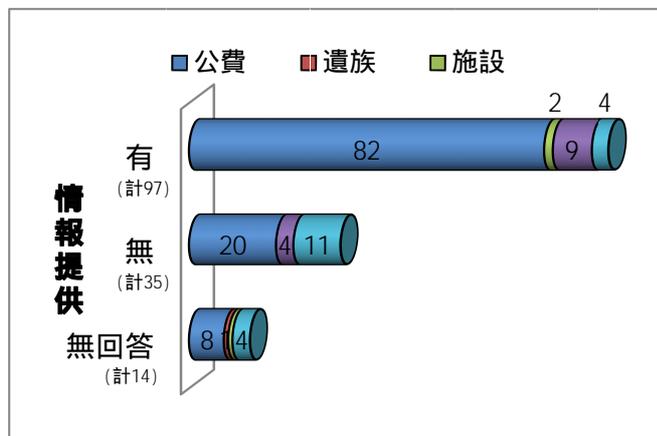


図 b-9 髄液・体液・血液・尿等の生理・生化学的検査における情報提供と費用負担からみた件数

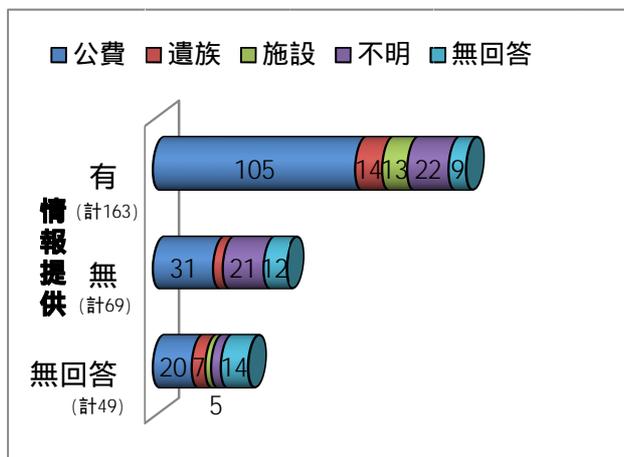


図 b-10 Ai (死亡時画像診断) 実施時の情報提供と費用負担からみた件数

